

文田健一郎先輩、銀メダル獲得

TOKYO2020
オリンピック

蕪崎工高新聞

9月号

発行所
蕪崎工業高校
新聞委員会

東京2020オリンピックのレスリング競技、男子グレコローマンスタイル60kg級で本校、卒業生の文田健一郎選手（平成25年度卒）がみごと銀メダルを獲得した。



文田健一郎選手



文田選手の試合を見守るレスリング部員たち
(本校、視聴覚室にて)

レスリングの男子グレコローマンスタイル60kg級は8月1日に1回戦、2回戦、準決勝が行われた。1回戦目はアブデルカリム・フェルガート（アルジェリア）にテクニカルフォール勝ちし、2回戦目は瓦里汗・賽里克（中国）に1対1の内容で勝利、準決勝はレヌール・テミロフ（ウクライナ）に5対1で勝った。2日に行われた、ルイスアルベルト・オルタ

サンチエス（キューバ）との決勝戦では得意の反り投げが封じられ、文田選手本来の試合ができず、惜しくも1対5で敗れた。試合後のインタビューで、文田選手は「勝つて恩返しをしたかったが、不甲斐ない結果に終わってしまった。本当に申し訳なく思っている」と語っていたが、銀メダル獲得という偉業を成し遂げたのは、とても素晴らしいことである。文田選手の3年後のパリオリンピックでのリベンジに期待したい。

文田選手の試合を見て、レスリング部の大村幸誠部長（3年）は「今回は

惜しくも銀メダルと納めてしまったが、パリオリンピックでは文田選手の反り投げが見られることを信じている」と、また本名一晟さん（3年）は「途中負けていたとしても最後まで諦めずに取り組む姿勢や応援してくれた人たちに感謝の気持ちを忘れずに伝えていたことに感銘した」と語った。本校レスリング部は2人のオリンピック選手を輩出している。1人目はロンドンオリンピック（2012年）の男子フリースタイル66kg級で日本男子24年ぶりに金メダルをもたらした米満達弘選手（平成16年度卒）、そして2人目が今大会の文田選手である。後輩たちは先輩に続けと、日々練習に励んでいる。

(清水)

日頃の成果を試す

ものづくりコンテスト関東大会・旋盤



微妙な調整を手作業で行う中山さん

第21回高校生ものづくりコンテスト関東大会旋盤作業部が9月11日、本校の機械加工室で行われた。山梨県の代表として、本校の中山碧さん（3年）が出場した。今

年の大会は新型コロナウイルスの影響で、各学校または各地区での実施となった。コンテストは円柱形の炭素鋼を課題の図面を見ながら加工する。作業時

間は2時間20分、時間をオーバーすると減点される。また、安全に作業が行われているかなどについても採点される。完成品は大会本部、審査員、後日、結果が送られてくることになっている。中山さんは「山梨の代表として選ばれて、気持ちを切り替え、真剣に取り組んできた。練習は目けんどうで何目盛り削れば良いのかをたくさん練習した。自分の感覚を掴むのが大変だった。大会は練習量が少ない中で本番を迎えたのでとても緊張したが、良い経験となった」と振り返った。

(谷村)

our teacher

今回は2年1組担任の長谷部龍巳先生。たくさんの知識を持っていて、時には生徒をからかう、楽しい先生。そんな長谷部先生を紹介する。

出身高校は、「日川高校」
趣味は何ですか。「ピアノ、ゴルフ、料理、家庭菜園」
座右の銘または好きな言葉は。「コントロールドきるのは自分のみ。」

ニラテクを浸透させたい



長谷部 龍巳 先生 (電子) 教科・工業科 (32歳)

習慣を変えることが人生を豊かにするのだ「一つの手段」
「教員になったきっかけは。」
「リーマンショックで民間企業の就職難&日川高校が甲子園に出場したこと（大学2年次）」
「どんな高校生でしたか。」
「放課後の練習のために日中は最大限体を休めていた」
「高校時代の部活

動は。「野球部」
「高校時代の思い出は。」
「気力体力が限界を突破した3泊4日の冬合宿。練習試合で強豪高校に完敗したこと。高2の冬に肘の手術をしたこと」
「先生が考案した「ニラテク」はどのような所から生まれましたか。」
「釜高（かまこう）という名称にはネガ

ティブな要素が含まれていることを知り、自分が高校時代から呼んでいた呼び方を反省。蕪工（にらこう）は蕪崎高校と間違われることがあるので、ニラテク（Nira-teku: Technical）はどうかと考えロゴを製作した」
「私たち、生徒に一言お願いします。」
「2030年までには山梨県民にニラテクを浸透させたい。そのためには生徒たちの他分野での活躍が鍵になると思う。生徒も教職員もがんばりましょう！（アシジャッシュの児嶋ではありません）」

(坂本)

段ボール箱、20箱届ける

蕪崎工業フードドライブ

生徒会が7月21日、NPO法人フードバンク山梨に保護者の方々の協力で集まった食料を届けた。これは生徒会が中心となり、三者懇談期間中の7月12日から19日まで、「蕪崎工業フードドライブ」として、家庭で余っている食品を集めた。集まった食品の数は、段ボール約20箱で、主に乾麺、カップ麺、レトルト食品、お米、調味料などであった。

(樋口)

最近、我が家でも犬を飼い始めた。きっかけはハムスターを飼いたいと思っただけで、ペットショップに行き、犬のブリードにいきなり一目惚れしたのだ。今、コロナ禍で外出ができない状況が続く、私たち家族のように、ペットを飼い始める家庭が増えていく。しかし、日本では、ペットの飼育放棄やそれに関連した殺処分などが問題となっている。いろいろな理由で世話が出来なくなった飼い主が保健所に自己引き取り、ペットを引き取ってもらおうという声がある。新しい飼い主が見つからなければ殺処分されてしまう。本当におかしな話だと思う。動物たちには何の罪もない。しかも、それは税金で行われている。こんなことは、動物も人間も望んでいないはずだ。この事を知ったのはある一冊の本だった。動物の殺処分をなくそうと努力している高校生たちの本だった。心から感じ、この現状を多くの人に知って欲しいと思った。大切な家族の一員となった犬を飼っている私だからこそ、この本を読み、命の大切さを改めて知ることが出来た。これからは、家族の一員としてしっかり世話をし、お別れの日まで、たくさん思い出をつくらせて、一緒に幸せに暮らしていけたらいいなと、心から思う。

(坂本)

政治への関心を深める

高校生議会が行われる

高校生議会が8月3日、県議会議事堂で開催された。高校生議会は2018年から行われていて、その2年前に選挙年齢が18歳以上に引き下げられたことで、若い世代にもっと政治への関心を高めてもらうと県議会が企画した。

高校生議会には県内の公立・私立高校と特別支援学校の19人が参加し、県行政の課題や障害者の就業支援、環境問題などについて提言した。本校からは生徒会副会長の宮澤一青さん(2年)が参加した。



演壇に立ち、プラスチックについて提言する宮澤さん(県議会議事堂にて)

高校生議員19人は実
際に県議会議員席に座り、
1人ずつ演壇に立ち、県
行政の課題について1人
2人分程度、県執行部に提
言や質問を行った。その
内容について、県執行部
答弁などのやり取りが行
われた。

本校の宮澤さんは「プラスチックとの賢い付き合い方について」提言した。他の高校生議員からは、各地に広がる子ども食堂への期待(日本大学明誠高校)、若者の投票率の向上について(甲府南高校)、障害があっても社会で活躍できる山梨の将来像(山梨大学教育学部附属知支援学校)、一拠点居住や移住を促進するための取り組み(身延山高校他)、「名水の地」やまなしのイメージ定着に向けた取り組み(都留文科大学)など、いろいろな側面から提言された。

私の提言

以前ニュースで拾われたごみが海にたどり着き、鳥の鼻にプラスチックのストローが刺さっている映像を見た。プラスチック製品は現代の生活になくてはならないものだが、腐敗しないため環境へ悪影響を与えてしまっている。環境への負担をできる限り減らすため、循環型社会の仕組みをきちんと理解し実践していくことが重要になってきている。

最近では「SDGs(持続可能な開発目標)」の取り組みが広く知られてきている。私たち

プラスチックとの賢い付き合い方について

には自分の生活している地域を良好な環境のまま次世代に引き継いでいく義務がある。そのためには身近なところからしっかりと取り組んでいく必要がある。例えば、2020年7月から開始されたプラスチック製買い物袋の有料化によってエコバッグの利用率は大幅に上がっている。リサイクル(再生利用)、リユース(再利用)、リデュース(発生抑制)という観点で、まだできることがあるのではないか。また、プラスチック製品のみ問題は処分に関してもある。プラスチックの原材料は石油、燃焼時に大きな熱エネルギーが発生する。この生じたエネルギーをサーマルリサイクルとして利用することも考えられる。今できることを考えて、実行していく必要がある。(宮澤一青)

宮澤さんの感想
「高校生議会」に参加して、普段入らない議事堂で、実際に演壇に立ち自分の意見を提言できたことは、とても良い経験となった。そして、議会の流れや発言の仕方などのように行われているのかということも知ることができた。また、他校の生徒の意見などを聞いて、同じ内容でも、それぞれ意見や考えが違っていたのでお互い共有できた。一人ひとりの意見を通して少しだけだが、政治について理解することができた。

先輩からのメッセージ

卒業生講話より



天谷 陽さん(電気科・令和元年度卒)

関東電気保安協会に勤めています。仕事内容は工場、学校、会社、商業施設などの電気設備の点検、試験などです。中学の頃からフリーフラインに携わる仕事がしたいと思っ



黒川 徹斗さん(情報技術科・令和2年度卒)

甲府商科専門学校に進学して、プログラミングのJava、回路などのハードウェア、ITパスポートなどの情報系の資格について勉強しています。授業は進みが早く、理解していかなくてもお構



白砂 美希さん(制御工学科・令和元年度卒)

横河マニユファクチャリング(株) 甲府事業所に勤めています。仕事は製品の完成検査という責任のある最終工程を任されています。自分なりに納得できる進路を実現するために、多くの人から



池田 有沙さん(環境化学科・令和2年度卒)

山梨学院短期大学に進学して、子どもに関する言葉や環境、人間関係表現、健康という3領域や子供たちが楽しめる工作について学んでいます。中学3年生の頃から保育

進路について考える

1年卒業生講話

本校の卒業生による卒業生講話が9月1日と8日に、1年生の総合的な探究の時間で行われた。急ぎよ、学校が分散登校になった関係で、1日はオンラインの生配信、8日は1日に配信されたものを録画したビデオを教室へ視聴した。

講話の内容は、就職、進学、それぞれ2人の先輩から今の仕事や勉強内容など、進路決定をどの

編集後記

12日までのまん延防止等重点措置により、学校も午前、午後の2部に分かれての登校になった。それにより、普段は話し合いをして新聞作りをしているが、今回はできなくて少し残念だった。しかし、良い新聞が作れたと思うので、これからも頑張っていきたい。

編集担当

○記事
今村妃世里、長林有弥(3年)
坂本優良、樋口楊一朗(3年)
清水翔太、宮澤一青(2年)
加藤透真(1年)
○パノリン
高橋雅之、小林翼(2年)
東倉直季(2年)
○4コマ漫画
山花琳(1年)

すてきなまほう

